

IV-13

パーク・アンド・ライド、キス・アンド・ライド方式の
通勤目的自転車交通について

日大 理工学部

正員○山田清臣

h "

正員 高田邦道

KK 酒井不動産部

正員 酒井俊介

1. まえがき

大都市およびその周辺地域では、住居の分散がますます進展しつつあり、加わえて住居地域付近の末端輸送機関の整備が追従できないために、通勤所要時間は年々増大してきている。一方自家用車の保有率は、ほぼ4家族に1台となり、その伸び率は貨物自動車とこのいである。結果として、われわれの日常生活に自動車利用がしだいに定着化してきている。本研究で取りあげた通勤交通にも、乗用車がかかり使われてきており、都心部における駐車難や朝夕ラッシュ時における幹線街路上での交通混雑に拍車をかけている。また大都市周辺地域の主に幹線鉄道駅や周囲では、通勤目的のパーク・アンド・ライド方式やキス・アンド・ライド方式の自動車利用交通が増えてきている。この方式は比較的新しくまたその実態がよく分つていないために、駅周辺の駐車施設や転回施設の整備は、まったく立遅れている。乗用車の保有率の増大（モータリゼーションの進展）、住宅のスプロール的郊外化、末端輸送機関の整備の立遅れによる通勤所要時間延長などを考慮すると、本方式による通勤交通は、今後交通計画に大きな役割をもつものと考ええる。

本研究は、以上の観測により、パーク・アンド・ライドとキス・アンド・ライド方式の実態を調査したのでその結果を報告するものである。

2. 调查概要

調査対象地域は、口鉄総武線の市川駅～稻毛駅間である。
。パーク・アンド・ライド方式は、西船橋および稲毛駅周
辺で、キス・アンド・ライド方式は、西船橋、船橋、津田
沼および稲毛駅周辺において調査した。方法は、パーク・
アンド・ライド方式については直接面接方式（インタビュー）により、キス・アンド・ライドは、実態調査と送迎者
に回答用紙を直接手交し、後日郵送してもらうアンケート
方式を併用した。アンケートの回収率は、30～40%で本
調査にかなり高い関心があると考えられた。調査対象地域
を図-1に示す。

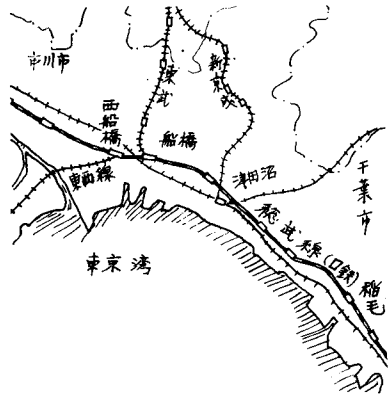


图-1 調查対象地域

3. パーク・アンド・ライド方式について

本方式の利用目的、利用頻度、利用開始時期(調査は昭和44年11月中旬)を表-1に示す。通勤・通学目的が89%~96%で大部分を占めている。このうち毎日パーク・アンド・ライドを利用しているのは84%という高い値を示し、パーク・アンド・ライド方式による通勤・通学がかなり定

着化していることがわかる。利用開始時期は、両駅で差がある。西船橋駅は、昭和44年3月末に当駅より都心へ向けて短絡する地下鉄が开通したためその時点より急激な交通需要が発生したものである。稲毛では、1年以前からは63%が利用している。西船橋駅でパーク・アンド・ライド方式によると新京成電鉄や東武電鉄沿線から都心部までほぼ1時間以内で通勤できるが、路線バスや電車の組合わせによる通勤所要時間は、たいてい1時間～1時間15分位かかる。全所要時間の短絡効果は15分～30分で、当然のことながら交通の便の悪い地域ほど効果が大きい。西船橋駅の場合は、この時間短絡効果が東西線開通によって特に顕著となり、利用者が急増した。

路上駐車（無料）中のドライバーに、将来有料駐車場が整備された場合にパーク・アンド・ライド方式と利用する傾向についての結果を表-2に示す。駅の位置条件には無関係に将来英米方式と利用したいとするものが過半数を占めている。

4. キス・アンド・ライド方式について
午前6時から9時までの通勤時間帯において、キス・アンド・ライド方式の利用動向の調査結果を表-3に示す。通勤・通学目的が90%以上を占め、パーク・アンド・ライド方式に比べて、通学目的利用割合が高い。毎日利用しているのが44%で、生活サイクルにキス・アンド・ライド方式を定着化させている家族がかなり多いことがわかる。

5. あとがき

都市内交通対策として、また今後ますます増大すると予想される自動車の大量化および住宅の郊外進出化の対策として、大都市周辺地域でのパーク・アンド・ライド、キス・アンド・ライド方式交通は、総合的交通対策の一つとして検討すべき多くの利便をもっていると考えられる。

なお本研究は、経済企画協会の“大都市における交通施設の効率的利用に関する調査”（委員長 八十島敏俊）にて報告したものである。

項目	内 訳	西 船 橋			稲 毛	合 計
		有料駐車	路上駐車	計		
駐車目的	通勤	85%	95%	93%	89%	92%
	通学	5	2	3	0	2
	業務	7	2	3	11	5
	その他	2	1	1	0	1
利用頻度	毎日	92	82	84	84	84
	ときどき	4	16	13	13	13
	はじめて	2	1	2	0	1
	不明	2	1	1	3	2
利用開始時期	10月前	5	35	27	5	
	1～4月	22	33	31	16	
	4～6月	12	7	8	6	
	6～1年	12	3	5	0	
	1年以上	32	8	14	63	
	不明	17	14	15	10	

表-1 パーク・アンド・ライド方式の調査結果

項目	調査駅名	西船橋 (路上)	稲 毛 (路上)	計
1) 有料で駅まで自動車でくる		41%	40%	41%
2) " " " (但し料金は3)		14	13	14
3) キス・アンド・ライド方式に代える		1	8	4
4) パーク・アンド・ライド方式はやめる		28	11	22
5) その他		-	16	5
6) 不明		16	12	14

表-2 パーク・アンド・ライド方式の将来の利用傾向

項目	内 訳	西船橋	船 橋	清田	稲 毛	計	男・女 合計
利用目的	通勤	83%	73%	81%	72%	78%	
	通学	16	24	19	18	19	
	業務	-	3	-	3	1	
	その他	1	-	-	3	1	
利用頻度	毎日	49	23	35	40	38	
	ときどき	15	7	2	14	10	
	はじめて	2	64	2	3	13	
	不明	-	-	-	-	-	
居住時の状況	本人	23	11	2	14	13	
	家族が迎えなし	7	-	-	12	5	
	迎えなし	38	14	36	32	30	
	本人	14	40	24	20	24	
	家族が迎えなし	2	10	7	11	5	
	迎えなし	16	24	30	3	22	
	本人	-	-	-	-	-	
	家族が迎えなし	-	-	-	-	-	

表-3 キス・アンド・ライド方式の調査結果